

「シビックプライド」を育むため稲城市観光協会を設立する (一般社団法人稲城市観光協会)

1. 稲城市の課題

都心から近くにありながらも豊かな自然環境に恵まれた良好な生活環境から、人口は全国の動きより長く人口が伸び続けることが予測され、平均年齢も都内都市部では最も若く伸びしろのあるまちとなっている。「住んでよし」のベッドタウンだけでなく、市民、内外との交流を通じて「訪れてよし」のまちを目指して「まちの魅力」を発信していく機能を強化する課題があった。

2. 一般社団法人稲城市観光協会の設立と方向性

課題解決の方法として、「まちの魅力」を発信する機能を有し、外部への発信だけでなく、住んでいるひとが自分のまちを良く知り、我がまちとして誇りを持ちながら「住んでよし」と満足できるようにするため、「地域行事」、「イベント」、「お祭り」などの情報を発信するための組織が必要である。併せて、住民が相互に情報を共有し、相互交流及び回遊性の向上を図ることも大切であるため、新たに「稲城市観光協会」を設立することとなった。

稲城市は、多摩丘陵や多摩川などの自然環境や延喜式神名帳に記されている古社であり多摩八社のひとつである穴澤天神社、よみうりランドなどのレジャー施設、梨やぶどうなどのフルーツなどの観光資源があり、地域固有の観光資源を対象にして、テーマ性が強く、地域が主体となって商品化を進めるための「テーマ別観光による誘客」が出来る可能性を秘めている。

また、住んでいる住民ひとりひとりがその観光資源を基に「シビックプライド（自分達の地域の誇り）」を持つことが必要であるとの考えから、行政の枠に留まらないマーケティング志向を持った民間ベースの実行力のある観光協会を立ちあげることで、観光を通じた「まちの活性化」の推進に取り組んでいくこととしている。

3. 「シビックプライド（地域の誇り）」の醸成から始まる観光振興

いわゆる「観光地」ではない住宅地域を抱える都内観光協会共通の課題解決のひとつとして、住んでいる住民が「ふるさととして誇り」を持ち「住んでよし」という気持ちを抱くことと、住民同士の相互交流を行うことが必要である。「住んでいる人がその地域/観光資源に誇りを持つ」という大きな目標を掲げ、駒沢女子大学・稲城市と産官学協定を締結し、学生による観光 MAP 作成などの相互協力をしながら「地域住民/民間」発で創りあげる「ボトムアップ型」の観光振興を目指している。

<おわりに>

住民ひとりひとりが「シビックプライド」を持つことは観光の原点であり、産官学協定を締結しながら、この地域に通う大学生も含めた地域住民とともに創りあげる稲城市観光協会の今後の展開を注視し、期待したいと考えています。

(地域支援窓口 多摩担当 松岡)

◆関連リンク

稲城市 HP : https://www.city.inagi.tokyo.jp/toretate_inagi/kankoukyoukai.html

- ・「一般社団法人稲城市観光協会の設立」
- ・「稲城市観光まちづくり産官学連携協定」



「協会理事、市長・市議会議員」設立総会の撮影（平成 30 年 5 月 31 日）